

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(紀南高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		生徒には希望を 保護者には夢を 地域には信頼を
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自己肯定感をもち、自他ともに認め合える人間関係のなかで、地域に貢献できる力を育む。 一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、個々の特性を活かして活躍できる生徒。 自らを認め、他者も認める人間関係を構築することができる生徒。 地域や社会に主体的に参画し、地域に貢献できる人材。
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの自己肯定感を高めるため、育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合える教職員。 あらゆる教育活動を通じて生徒一人ひとりの自己肯定感・有用感を高めるため、生徒に寄り添うことができる教職員。 育みたい生徒像実現に向け、互いに学び合い、支え合い続けることができる教職員。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要望・期待	<p>【生徒】学校生活への充実感、満足感、安心感。学力の向上。進路保障。</p> <p>【保護者】生徒の進路実現、社会で通用する基礎的な学力とコミュニケーション能力の育成。安心・安全な学校生活。</p> <p>【地域】地元地域を活性化する人材の育成。地域になくてはならない学校。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>◎学校運営協議会は学校運営の主体として連携する相手との総合的な調整を行う。</p> <p>【同窓会】母校・地域の発展に貢献できる生徒の育成。</p> <p>【小・中学校】卒業生が生き生きと生活し、成長する姿が感じられる高校。</p> <p>【地域の関係諸機関】さまざまな活動への高校生の参加。</p> <p>【PTA】生徒支援のためのPTA活動活性化。</p>	<p>◎学校運営協議会は連携する相手に対し、教育活動への積極的な参画を促す。</p> <p>【同窓会】生徒への支援をそれぞれの立場でサポート。</p> <p>【小・中学校】生徒に関する情報交換や教員間の交流。</p> <p>【地域の関係諸機関】それぞれの立場から生徒・保護者への支援。</p> <p>【PTA】保護者との架け橋。</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校との日常的な連携を深め積み重ねていくことで、信頼関係を構築していくような地道な取組が必要である。 ・すべての生徒の進路を保障するため、通級による指導の継続、さらなる充実等、一人ひとりに寄り添った支援を継続していく必要がある。 ・自己肯定感の育成について、より完成された特別支援プログラムの開発に向け、PDCAの積み重ねが必要である。 ・地域を見つめ、自分が将来生きていくために必要な街づくり・生業づくりに必要な知識や技術を学ぶために学習していることが実感できる教育内容に変わってきており、コミュニティ・スクールの所期目標に近づきつつある。 	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 本校の強みである面倒見のよい学校づくりを進めていく。教職員で生徒の情報共有を密にし、個別の支援を強化して進路保障に繋げていく必要がある。 生徒の個別の課題に応じた学習支援を進めていく。また、主体的・対話的で深い学び及び探究的な学びの視点からの授業改善、及び観点別学習状況の評価の改善に向けて研修等を通して教員のスキルアップが求められる。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した生徒主体の取組を活性化させ、全校生徒が様々な活動に取り組めるよう支援し、発信していく。 多様化する生徒の課題に応えるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、外部機関との協力を積極的に進める。 今後も働き方改革を進めるため、業務内容の改善を継続するとともに、スクールサポートスタッフ等の協力により、ワークライフバランスの整った学校運営をしていく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> 地域と協働した教育活動を行い、キャリア教育を充実させ、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。 ・コミュニティ・スクールの理念を活かし、地域と協働した教育活動を進める。 ・生徒が自らの生き方について主体的に意思決定し、行動できるように、キャリア教育を充実させる。 ・生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の資質向上及びコンプライアンス向上に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指して、地域とともにより信頼される学校づくりを進める。 ・コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくりを進める。 ・積極的に研修を行い、教職員の資質向上及びコンプライアンス向上に努める。 ・質の高い教育を維持しつつ業務改善を推進し、勤務時間の縮減に努め、ワークライフバランスのとれた組織を目指す。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<p>(参考:令和6年度入学生まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己実現に向けて意欲的に取り組み、学習活動等に積極的に取り組む生徒。 ・地域に密着した活動等に取り組む意欲のある生徒。
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
①地域と協働した教育活動の充実	(1)カリキュラム・マネジメントを実施し、地域の実状や要望、生徒の実態等を踏まえた、教育課程の研究および編成を行う。(教務)	(1)令和6年度入学生教育課程を現状に応じて変更した。	
	(2)各家庭や地域と連携し、生徒の基本的生活習慣等の確立に向けた様々な支援を行い、きめ細やかな進路指導を行う。(学年) 【活動指標】全学年三者面談年1回以上、個別面談年3回以上実施	(2)各学期の個別面談に加え、1学期末には三者面談を行った。また、各家庭や関係機関と密に連絡を取りながら必要な支援を行い、生徒の進路実現に向けて指導を行った。 【活動指標】三者懇談1回、個別面談3回実施[達成]	※
	(3)各学年と他分掌との協働や、地域の専門機関等との連携を深めながら、充実した学校生活を送れるように、学校全体で個	(3)ケースに応じて、各学年や他分掌と連携を取り、支援を行った。また、スクールカウンセラー・スクー	◎

	<p>に応じた支援を行う。 (保健)</p> <p>(4)総合的な探究の時間等を活用し地域理解の機会や職業理解の機会を設け、進路意識の向上につなげる。(進路) 【活動指標】事後アンケートを実施、結果を分析</p>	<p>ルソーシャルワーカー・発達障がい支援員など専門家の活用や地域の専門機関等とも連携を取り、充実した学校生活を送れるように支援を行った。</p> <p>(4)外部機関と連携し、3年次生を対象とした「合同企業説明会」を6月に、2年次生を対象とした「合同企業説明会」を1月から2月にかけて複数回実施した。事後アンケート結果から地域理解や職業理解につながるものであったと判断できる。 【活動指標】達成</p>	※
②キャリア教育の充実	<p>(1)主体的・対話的で深い学びや、授業のユニバーサルデザイン化、ICT活用の推進に関する教員のスキルアップを支援する。(総務・教務) 【活動指標】研修会や情報発信、検討会等を合計5回以上(総務・教務)</p> <p>(2)様々な職業、学びの分野を知り、主体的に希望進路を見出したり、希望進路の実現に向けて具体的に動き出したりするきっかけとなる進路ガイダンスを企画する。(進路) 【活動指標】各年次1回以上のガイダンス実施、年度末アンケート結果(進路)</p> <p>(3)地域の保健所や消防署と協力し、思春期教育講演会やAED講習会を行う。(保健) 【活動指標】講演会各年次年1回、講習会1回実施(保健)</p>	<p>(1)授業公開週間2回、授業力交流研修会1回その他、浜松学芸高校・飯南高校・箕面東高校へのベンチマークの企画および今後の教務部の在り方の検討会を各1回行った。 【活動指標】達成</p> <p>(2)各学年、外部と連携したガイダンスを実施することができた。特に2,3年次生のガイダンスは効果的であったとアンケートから判断できる。 【活動指標】達成</p> <p>(3)12月に各年次に思春期講演会、3年次に歯科保健講演会を行った。 【活動指標】達成</p>	◎
③生徒が安心して学校生活を送れる環境づくり	<p>(1)様々な課題をもつ生徒に対して、学校全体で効果的な指導・支援が行えるよう、教員間で積極的に情報を共有するよう努める。(生支) 【活動指標】担任・副担任との情報共有、週1回実施(生支)</p> <p>(2)生徒が、いじめや虐待に関する相談しやすい体制を作る。アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。(生支) 【活動指標】いじめや学校生活に関するアンケート、学期に1回以上実施(生支)</p> <p>(3)人権意識の向上を目指し、生徒同士の「つながり」への支援を行う。(人権) 【活動指標】人権学習各学期1回以上実施、人権通信各学期1回発行(人権)</p>	<p>(1)朝の打合せの時間を利用して、週1回以上情報共有を行った。また必要に応じ、担任や他分掌と情報共有を行った。 【活動指標】達成</p> <p>(2)5月(Hyper-QU)・7月(生活アンケート)・9月(いじめアンケート)・11月(Hyper-QU)・1月(生活アンケート)など、いじめや学校に関するアンケート計5回行った。 【活動指標】達成</p> <p>(3)人権学習を各学期1回以上、2学期に全学年対象に人権講演会を実施するとともに、その様子をまとめた人権通信を各学期1回発行した。 【活動指標】達成</p>	※
改善課題			

- ・ 支援が必要な生徒が増加傾向にあるため、引き続き校外での連携を強化し、学習面や生活面、コミュニケーション等について、多角的に支援をする必要がある。
- ・ 地域の魅力や課題について理解を深め、自らのキャリアについて主体的に意思決定する力や行動力を育成するため、3年間を見通した系統的な指導計画を立てる必要がある。
- ・ 3年間を通した人権学習により、人権意識を高め、差別のない学校づくりを推進していく必要がある。
- ・ 基礎学力の定着及び主体的・対話的で深い学び、探究的な学びの視点からの授業改善に向けて、教員のスキルアップが必要である。また、観点別学習状況の評価について、教員の理解を深め、検証・改善する必要がある。

(2)学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
①コミュニティ・スクールとして地域と協働し、より信頼される学校づくり	<p>(1) SNSを活用したり、中学校での学校紹介を工夫したりして、本校の行事や生徒の学習成果、学校生活の様子を発信する。(総務・教務) 【活動指標】年間40回以上の情報発信、学校紹介チラシの作成</p> <p>(2) 関係機関と連携し、交通安全や防犯などに関わる啓発活動やボランティア活動、他校との交流会等に積極的に参加する。(生徒会)(総務) 【活動指標】年3回以上実施</p> <p>(3) 「紀南地域県立学校拡大人権教育推進協議会」などの会議において、本校の人権学習を公開し、その内容について交流、協議を実施する。(人権)</p>	<p>(1) ブログに学校の様子を40回以上掲載するとともに、紹介熊野青藍高等学校チラシ「藍のかぜ(動画リンク付き)」3回分および「学校紹介パンフレット(1頁分)」の他、高校生活入門講座用の総合学科コース紹介の動画を制作した。【活動指標】達成</p> <p>(2) 紀宝警察と生徒会が連携した防犯ボランティアに計2回参加した。地域の小学校と合同での防災教育ボランティアに参加した。 【活動指標】達成</p> <p>(3) 紀南地域県立学校における拡大人権教育推進協議会において、人権学習を公開し、協議を実施した。</p>	◎
②教職員の資質向上及びコンプライアンス向上	<p>(1) 学年団と連携して進路指導業務を行い、情報共有を行うことで、教員の進路指導に関する資質・能力を向上する。(進路) 【活動指標】進路指導会議を各年次と年2回以上実施</p> <p>(2) 特別支援教育に関する研修会を行う。(特支)【成果指標】年2回実施(特支)</p> <p>(3) 教職員への人権啓発を促進し、担当者会議を計画的かつ系統的に行う。(人権) 【活動指標】研修会年2回以上、人権教育担当者会議年6回以上実施(人権)</p>	<p>(1) 教員の進路指導に関する資質・能力向上の取り組みについては進路指導部内での共有にとどまったが、3学年を中心に学年団との進路行事等についての情報共有や連携を行うことができた。 【活動指標】達成</p> <p>(2) 6月と2月に特別支援教育に関する研修会、9月に教育相談に関する研修会を実施した。 【活動指標】達成</p> <p>(3) 7月、12月の計2回研修会を実施し、人権教育担当者会議を年6回実施した。 【活動指標】達成</p>	◎
③ワークライフバランスのとれた組織づくり	<p>(1) 次世代の育成に必要な指導体制を確立するため、総務・教務部の業務の大胆な見直しを推進し、学校規模およびスタッフ数に応じた業務の適正化を図る。(総務・教務)</p>	<p>(1) 進捗を共有するなど計画的な業務運営を行い、総務・教務部スタッフの定時退校日の定時退校率を100%とした。また、学びの在り方や時代の変化を踏まえ、「きなん小中学生俳句コンクール」を今年度で終了することとした。</p>	

	<p>(2)きめ細やかな生徒支援の実行に向け、教育相談・特別支援担当と連携し、生徒のサポートの一助とする。(保健)</p> <p>(3)教職員が働きやすい環境づくりの考え方を踏まえ、以下の成果指標・活動目標を目標とし、学校における働き方改革を推進する。</p> <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% ・放課後に開催し 60 分以内に終了した会議の割合 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える時間外労働者の人数 0 人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 ・1 人当たりの月平均時間外労働時間 30 時間以下 ・1 人当たりの年間休暇取得日数 20 日 	<p>(2)スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・発達障がい支援員との情報共有を密に行い、生徒の支援に繋がった。</p> <p>(3)本校教職員のストレスチェックの指標から、働きやすい環境であることが確認できるが、分掌業務や部活動指導等一部の教員の過重労働は課題が残った。</p> <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校率 95.5% 達成 (663日:退校633日、不可30日) ・部活動休養率 99.3% 未達成 (430:設定427、不可3) ・会議終了率 81.6% 未達成 (49回:終了40回、不可9回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 360 時間を超え労働者 4人 未達成 ・月 45 時間を超え延べ人数 28人 未達成 ・月平均時間外労働 20.0 時間 達成 ・年間休暇取得日数 19.6日 未達成 	◎
--	---	--	---

改善課題

<ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の課題に適切に対応するため、引き続き専門機関や外部機関と連携をとり、課題の改善に繋げていく必要がある。 ・生徒の進路保障のため、学校生活や学習面等で保護者との継続した情報共有や連携が必要である。 ・生徒に必要な支援が多様化・複雑化しているため、外部との連携や教職員への研修の実施等により、教職員の心身の負担とならないような支援体制を構築する必要がある。 ・部活動による時間外勤務の負担が大きいいため、本木高校・校舎との連携、設置部活動の見直しや練習監督の輪番制等、勤務時間削減に向けた取組を検討する必要がある。
--

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紀南校舎の存続に向けては、管内中学校との連携を強化し、中学生のニーズを正確に把握したうえで、1 学年 40 人という少人数の強みを活かし、「進学したい」と思われる魅力ある学校づくりを進めることが求められる。また、その実現には、在校生の活躍発信や中学生との直接的な関わりなど、紀南高校・紀南校舎の教員と生徒が一体となった取り組みが必要である。 ・職場体験等地域密着、地域連携の取り組みを大切にして、引き続き実施していく。 ・基礎学力の定着とともに授業の魅力化を図る必要がある。 ・行事全般については、生徒にとっての教育的効果と教員のワークライフバランスの両面から見直し、生徒のために何が最適かを検討する必要がある。 ・すべての生徒の進路を保障するため、通級による指導の継続、さらなる充実等、一人ひとりに寄り添った支援を継続していく必要がある。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の強みである面倒見のよい学校づくりを進めていく。教職員で生徒の情報共有を密にし、個別の支援を強化して進路保障に繋げていく。 ・生徒の個別の課題に応じた学習支援を進める。また、主体的・対話的で深い学び、探究
---------------------	--

	<p>的な学びの視点からの授業改善、及び観点別学習状況の評価の改善に向けて、研修等を通して教員のスキルアップを進める。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域と連携した生徒主体の取組を活性化させ、全校生徒が様々な活動に取り組めるよう支援し、発信していく。 ・多様化する生徒の課題に応えるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ、外部機関との協力を積極的に進める。 ・今後も働き方改革を進めるため、業務内容の改善を継続する。また、行事全般については、生徒にとっての教育的効果と教員のワークライフバランスの両面から見直し、生徒のために何が最適かを検討していく。